

あじさい



第 120 号

2024 年 3 月
日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>



鳥の換羽 (連載第 2 回)

第 1 回冬羽と成鳥冬羽との識別

津市 平井 正志

はじめに

鳥の羽衣や換羽について詳しくない方は前号の記事（しろちどり 118 号、鳥の換羽について）を読み返してから今回の記事をお読みいただくと、理解が深まります。

秋にみられる鳥には、当年生まれの鳥、すなわち第 1 回冬羽 (First Winter: 1W) と、繁殖を終えた成鳥冬羽 (Adult Winter: AW) がある。この両者の大きさはほとんど変わらない。多くのバードウォッチャーは区別せずに見ている。ただし、いくつかの鳥では野外で識別ができる。シロハラなどの大型ツグミ類の 1W は翼の大雨覆に白っぽい斑点のある幼羽が残る。また、ホオジロ類の尾羽の幼羽は先端が尖っている。以下、詳しく説明しよう。スズメ目で、三重県内でよく見られ、野外でも区別の容易な種を紹介する。

オオルリとキビタキ

秋に見られるオオルリのオス 1W では頭、胸は、オリーブ色がかった褐色（以下オリーブ褐色）。肩羽、翼、尾などは青色である。

このオス 1W は全身が青い繁殖を終えた親鳥 (AW) とは一目で区別ができる (図 8)。この 1W の大雨覆 (Greater Coverts: GC) には幼羽が残る。図 8 では GC の内側 2 枚は換羽して青いが、その他は幼羽であり、先端が淡色である。一方、キビタキではオスでも 1W ではメスと同様に、全身がオリーブ褐色であり、キビタキ特有の白やオレンジの色は全くないし、オスメスの識別ができない (図 9)。

一方、オス成鳥冬羽 (AW) では夏羽と同じく、白、黄色、黒の派手な色合いであり、これとは区別できる。1W は GC の先端が淡色であり、メスの AW とは区別できる。なお、オオルリのメスも同じ様な色合いなので注意が必要。

目次

鳥の換羽 (連載第 2 回)	
第 1 回冬羽と成鳥冬羽との識別	2
表紙の言葉	2
滋賀湖北・山本山のオオワシを訪ねて	6
推しの一枚 キマユムシクイ	7
木曾岬干拓地のカササギはどこから来たのか?	8
野鳥記録	10
ガンカモ調査終わる	13
今冬のミヤコドリが大幅に増加してます	14
理事会報告	15
代表、事務局の交代	15
事務局だより	16
探鳥会報告 (2023 年 10 月～2024 年 1 月)	16
編集後記	20

表紙の言葉

マヒワ

四日市市 三曾田 明

マイフィールドの北勢中央公園では春先にマヒワが群れて現れることがあります。最近では 2021 年、その前は 2011 年でした。

マヒワは主にスギ、マツ類などの針葉樹の種子を食べているそうですが、北勢中央公園では芝生の上で何かを食べています。タンポポ、ヨモギ、マツヨイグサ類の種子も食べるらしいので、まずはタンポポの種子は食べてるのでしょうか。その他、タンポポのないところでも背の低い草の茎をくわえていたので、その他の種子も食べている様子。

毎年来てくれるわけではないのが残念ですが、そのうちまた来てくれるだろうと期待しています。次は何を食べているのかもっとよく観察しようと思っています。



図 8. オオルリ オス 1W
2006/9/24 伊賀市 青山高原
大雨覆には幼羽が残り、幼羽の先端が
白い：矢印

図 9. キビタキ オスメス不明 1W
2006/9/24 伊賀市 青山高原
GC は幼羽であり、先端に淡色斑があ
る（下側の淡色部分：矢印）



シロハラ、アカハラ、マミチャジナイ

秋に日本にやってくるシロハラでは成鳥 (AW) も当年生まれの 1W も大きさも色もほとんど違いがない。しかし、1W では大雨覆 (GC) の外側数枚に幼羽が残っており、幼羽の先端に淡色斑 (写真ではほとんど白く見える) があるので簡単に識別できる (図 10)。一方成鳥 (AW) では GC に淡色斑がない。シロハラは近くでじっくり見る機会があるので、この幼羽の存在は注意すれば確認できるであろう。野外で撮影された画像からも識別可能な場合がある (図 11、12)。

同様に、アカハラやマミチャジナイも同様に GC の淡色斑で第一回冬羽と成鳥は区別できる (図 13)。

これら大型ツグミ類については尾羽でも 1W と AW が区別できる。1W では尾羽が幼羽のままで、先端が尖っている (図 14)。一方 AW の尾羽は換羽して、先端が丸い (図 15)。この違いは後ろ姿を撮影すれば、野外でも簡単に識別できるだろう。

図 10 シロハラ 1W
2007/1/2 津市 蛇谷池。GC の外側 5 ないし
6 枚が幼羽であり、先
端が白っぽい：矢印





図 11 シロハラ 1W 2017/4/23 四日市市
北勢中央公園 三曾田 明撮影。GC に幼羽があり、
先端は白い：矢印。



図 12 シロハラ AW 2016/12/31 四日市市
北勢中央公園 三曾田 明撮影
大雨覆（GC）に白い部分は無い：矢印。



図 13 マミチャジナイ 1W 2019/10/7
北海道 稚内市。GC の少なくとも 4 枚は幼羽
で先端が白い：矢印。



図 14 マミチャジナイ 1W 2019/10/7
北海道 稚内市 尾羽の先端が尖っている。



図 15 シロハラ AW 2023/1/14
津市 蛇谷池 尾羽の先端は丸い。

ホオジロ類

ホオジロ類の GC は AW、1W の識別には使えない。尾羽の先端の形状が識別の決め手となる。一般に 1W の尾羽は幼羽で先端がとがっており、AW の尾羽は先端が丸い。オオジュリンでは両者がはっきりと区別できる。1 枚でも幼羽が残っていればその年に生まれた 1W である (図 16)。一方アオジでは 1W でもほとんどの個体が尾羽を換羽しており、1W と AW の識別には約立たない。ただ、稀に尾羽が幼羽のままの 1W を見かける。カシラダカ、ホオジロでも尾羽で 1W と AW は識別できる (図 17、18)。ただし、尾羽がすべて換羽した 1W がある程度はいると考えられるが、その比率は知られていない。

一方、ホオアカでは AW の尾羽、すなわち換羽後の尾羽も先端が尖り気味であり幼羽との尾羽との区別が難しい。秋にホオジロ類を見つけたら、後ろ姿を撮影してほしい。1W、AW の区別が着くかもしれない。



図 16 オオジュリン 1W 2019/9/8 北海道 稚内市 中央の3枚が換羽済みの新羽で、先端は丸い：矢印。その他は幼羽

1W と成鳥の比率

冬鳥が多いとか少ないとかがしばしば、話題となる。冬鳥の中にどれくらい当年生まれの鳥、すなわち 1W が含まれるのだろうか。その比率はその年の繁殖の成否に大きく依存するだろう。オオジュリンは長距離の渡りをする鳥である。渡りの成否も成鳥と当年生まれの 1W とで、差があろう。この比率は色々な要素により、変化するだろう。筆者が三重県員弁川中流で捕獲し、放鳥したオオジュリンのデータを表 1 に示す。越冬する鳥の 70%以上が 1W であった。意外と 1W の比率が高いのに気づかれるであらう。この 2 年で 1W の比率に大きな変化はなかった。もし、このような調査を続けられれば、年ごとの繁殖・渡りについての情報が得られるであらう。

表 1 員弁川で越冬するオオジュリンの年齢 単位 (羽)

区分	調査年(1月～2月)	
	2020	2021
1W	138	146
AW	45	39
合計	183	185
1W の比率	0.75	0.79



図 17 カシラダカ メス 1W 2010/10/9 北海道 稚内市。尾羽の全てが幼羽。



図 18 ホオジロ 1W 2006/12/1 津市 安濃川中流。尾羽の全てが幼羽。

謝辞

山階鳥類研究所 協力標識調査員 今野 怜氏には原稿を見ていただき、貴重な意見をいただいた。ここにお礼を申しあげる。

文献

オオルリ (*Cyanoptila cyanomelana*) キビタキ (*Ficedula narcissina*) 識別マニュアル 2009年3月 環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室

滋賀湖北・山本山のオオワシを訪ねて



津市 山下伸子

2023年12月6日、湖北へオオワシに会いに行ってきました。言わずと知れた有名な山本山のオオワシおばあちゃんは、三重からも毎年のように会いに行かれる方もいらっしゃると思います。

今回はお天気に恵まれ、山本山の前には30人程のカメラマンがオオワシに熱い視線を送っており、山本山の斜面にとまるオオワシ、終わりかけた紅葉をバックに飛ぶオオワシをゆっくり観察撮影することができました。

斜面にとまっているオオワシをハシブトガラス8羽がとり囲みモビング、オオワシはカラスを嫌っていったん飛び立ちまた斜面の木にとまりますが、執拗に追いかけてくるカラス。カラスにはカラスなりの事情があるのですが、弱い者いじめならぬ強い者いじめにしか見えません。しばらくしてカラスの威嚇にたまりかねたのか、お腹がすいてきたのか、オオワシは再び飛び立ち、トビにも追われ北へ飛び去ってしまいました。戻ってくるのを期待して飛び去った方向を見ながら待つこと30分程、突然まさかの反対側の南からオオワシが現れたのに一人のカメラマンが気付きました。私達もあわてて方向転換し飛ぶ姿を確認し撮影しました。そして今度は先程より少し近くにとまってくれましたが枝かぶりですッキリとは見られません。近くに居るカラス達も枝が邪魔してか威嚇しなくなり、オオワシはやっとゆっくりできたようで羽繕いしていました。



紅葉をバックに飛翔するオオワシ

久しぶりにしっかり見られたオオワシは、はっきりした白と黒の羽色に太いくちばしと足の黄色いアクセントが美しく、際立つ大きさと鋭い目力はやはり王者の名にふさわしいワシでした。

山本山のオオワシのことを初めて知ったのは2007年1月の新聞に2日間に渡って掲載されたオオワシの記事でした。

その2日目は興味深いオオワシの一人遊び。枯れ枝を握り飛んだオオワシがわざと空中で枝を落とし、宙返りして再び枝をキャッチ。またその枝を足で握り、端を啜って笛をふくかのようなしぐさをみせたことが紹介されていました。求愛行動の練習なのでは？とも書かれていました。



ハシブトカラスからのモビング



8羽に取り囲まれ飛び立つオオワシ

こんな立派なワシが琵琶湖で見れるのかと次のシーズンに初めて見に行き、幸運なことに大きな魚をおいしそうに食べている姿も観察することができました。その時はまだ山本山のおばちゃんと呼ばれていたこのオオワシも今季で26回目の飛来、推定年齢は国内で確認されているオオワシの中で最高齢の32歳以上のおばあちゃんです。毎年渡りを繰り返し、湖北の地でたくましく冬を生き抜いてきたオオワシのおばあちゃん、北の繁殖地では頼りになる伴侶とたくさんの子育てをしてきたことでしょう。

このオオワシがまた来季も無事に飛来するかどうかは誰にもわかりません。26年前初代山本山のオオワシが姿を消した後すぐにこのオオワシが山本山に来たようにいつかは次のオオワシがこの地を縄張りにする時が来るのかもしれませんが。



トビにも追われるオオワシ

その時も長年オオワシを育んできた湖北の自然が豊かに保たれていくことを祈りたいと思います。

写真撮影：山下 博寿

推し的一枚 キマユムシクイ

伊勢市 中西 まほ



撮影者のコメント

メジロの群れをばーっと見ていたら、なんだか違う鳥を発見！ 桜の木々をいそがしく飛びまわってメジロたちと仲良く採餌していました。

撮影：中西 まほ

キマユムシクイ

全長約 10.5cm。ムシクイ類中では小型の種。体上面の色がやや暗めの黄緑色で眉斑は黄色味を帯びた白。中国内陸部、中央アジア東部、ロシア東部で繁殖し東南アジアで越冬。日本での越冬は稀。(編集部)

木曾岬干拓地のカササギはどこから来たのか？



四日市市 笹間 俊秋

カササギ

カササギはスズメ目カラス科。ハシボソガラスより一回り小型で全長 45cm、黒地に白い羽を持ち尾羽が青色である。生息は平野の人里を好み住みかとしている。世界的には 11 亜種が存在していて、日本の個体群を含む亜種 *Pica pica serica* Gould は、ほぼ東アジアに限定されている。日本では佐賀県周辺の九州、苫小牧周辺の北海道で繁殖が確認されている。

カササギは渡りの習性がなく、さらに飛翔能力が低いとされていて本州へ繁殖地が広がる兆候は見られていない。本州で確認されている場所は東京、横浜、仙台、兵庫、広島などであるが繁殖は確認されていない。



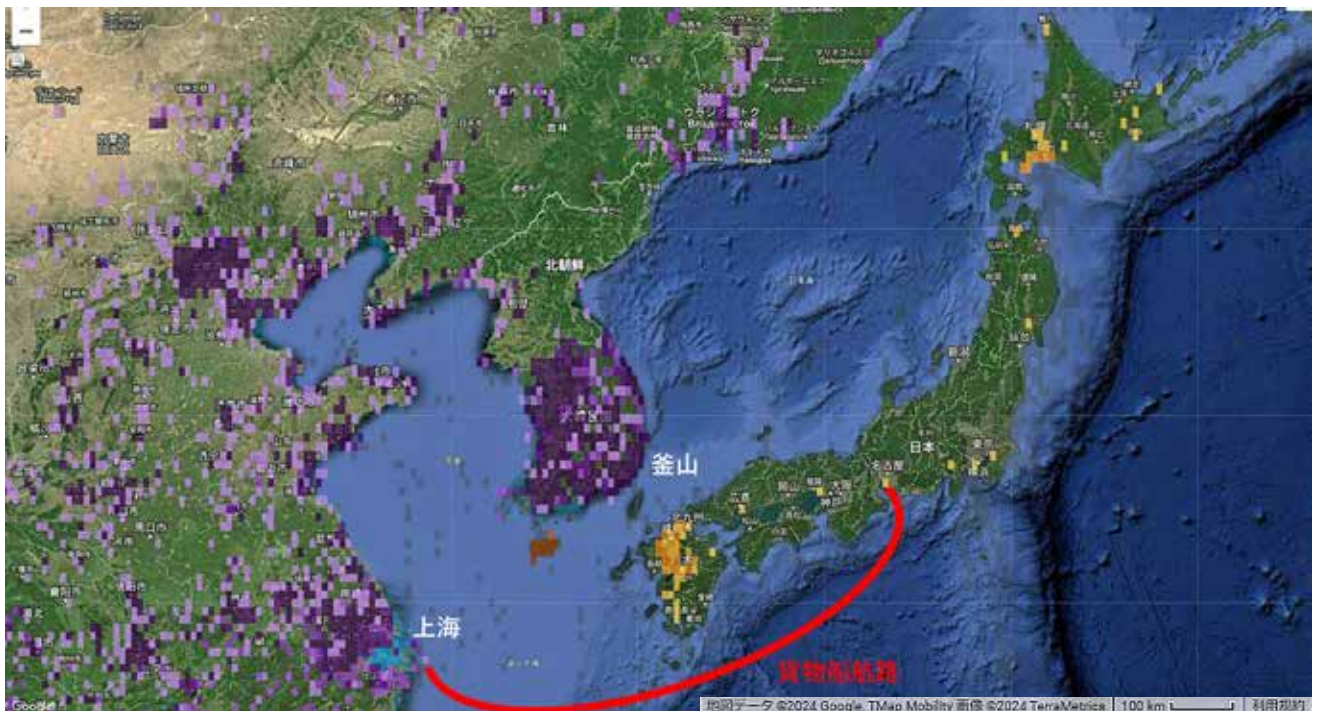
写真 1 カササギ 2023.6.28



写真 2 堤防上を移動するカササギ 2023.6.28

東海地方での目撃例

2023 年 6 月 28 日に木曾岬干拓地にて三重県みどり共生課の方たちとチュウビ保護地区の現状を視察へ行った際に堤防沿いをカササギが移動しているのを目撃、急いで写真を撮影（写真 1、2）するが、すぐに干拓地内へと入っていった。その後は周辺で確認されることはなく消息不明となった。それ以前の記録としては 10 年以上前に藤前干潟にある稲永ビジターセンターにてレンジャーの方が松の上にとまっているカササギを目撃している。



地図 1 カササギの生息地（紫 大陸の生息地、黄色 日本で確認された場所）

カササギはどこから来たのか？

先にも述べたようにカササギは渡りの習性がないことや飛行能力も乏しいため、他から渡って来たとは考えられない。動物園での飼育は熊本動植物園のみでペットとして取引されていない現状では籠脱けの可能性は考えにくい。東海地方で確認されたのは藤前干潟と木曾岬干拓地だけである。また、eBirdのホームページでカササギの分布域をマップ表示させて本州で確認された場所を見ると、共通している事は貿易港の近くであることが見てとれる(地図1)。

藤前干潟と木曾岬干拓地の位置関係を見てもらうとコンテナ埠頭である鍋田・飛島埠頭がすぐそばにあることが分かる(地図2)。鍋田・飛島埠頭は中国からのコンテナ船が多く入港している。カササギの生息地域を見ると(地図1、紫の地点)中国、韓国全域に生息していることが分かる。このことから中国・韓国で貨物船が停泊中にカササギが船上に止まっていて気が付いたら洋上へ出てしまい、陸地へ帰れなくなった可能性が考えられる。貨物船の中国・韓国から日本への航行日数は2日～5日である。この日数であればギリギリ生きてたどり着ける日数と思われる。

まとめ

渡りのサシバが越冬地へ向かう際、貨物船で休んで移動していることが指摘されている。カササギが貨物船で移動したと言う目撃例は確認されて



地図2 名古屋港周辺の位置関係

いないが、渡りの習性、飛行能力、目撃例がコンテナ埠頭の近くであるところから考えると貨物船に乗って移動してしまった可能性が一番高いと推測される。また、本州で確認されているカササギは単独行動で、つがいは確認されていないことから繁殖の可能性は低い。こうしたことから本州での生息は広がらず日本での生息域は現状の九州・北海道に限定されると思われる。

引用文献

eBird. 2021. eBird: An online database of bird distribution and abundance [web application]. eBird, Cornell Lab of Ornithology, Ithaca, New York. Available: <http://www.ebird.org>. (参照 2024-02-15).



鎌ヶ岳

野鳥記録 (2023年11月20日から2024年2月10日までに報告があったもの)



鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所	雄 / 雌 / などの 区別	記録報告者 氏名	脚注
ムナグロ	8	2023/08/25	御浜町市木		清水 勝海	1
イスカ	40	2023/11/12	松阪市飯高町	成鳥 雄 / 雌	西村 四郎	2
タゲリ	4	2023/11/19	御浜町下市木		清水 勝海	3
クビワキンクロ	1	2023/11/21	熊野市有馬	雌	沢本 浩志	4
ニューナイスズメ	100	2023/11/21	四日市市寺方町		岡崎 かおり	5
イスカ	50	2023/11/22	伊賀市 青山高原		南 一朗	6
サンカノゴイ	1	2023/11/24	木曾岬町 木曾岬干拓地		橋本 啓史	7
ソリハシセイタカシギ	18	2023/11/24	松阪市 雲出川河口右岸		今井 光昌	8
メジロガモ	1	2023/11/27	松阪市	雄	中村 真理子	9
コハクチョウ	2	2023/11/30	鈴鹿市伊船町 龍ヶ池	幼鳥 2	古川 幸子	10
カワアイサ	4	2023/12/03	名張市 名張川	雄 1、雌 3	南 一朗	11
クロサギ	1	2023/12/22	伊勢市	不明	中村 真理子	12
ホシハジロ (交雑種)	1	2023/12/24	鈴鹿市	雄	今西 純一	13
ヤマシギ	2	2023/12/24	松阪市		西村 四郎	14
ノスリ	1	2023/12/27	紀宝町中内		清水 勝海	15
オナガガモ× マガモ (交雑種)	1	2023/12/31	松阪市 金剛川河口	雄	鈴木 健真	16
オオタカ	1	2024/01/05	多気郡大台町		宮川 雅彦	17
ツクシガモ	21	2024/01/06	松阪市 阪内川河口	成鳥 幼鳥 雌雄混在	今井 光昌	18
チョウゲンボウ	1	2024/01/08	御浜町下市木		清水 勝海	19
ヤマセミ	1	2024/01/12	松阪市	雌	中村 真理子	20
メジロガモ (交雑種)	1	2024/01/19	松阪市		山下 博寿	21
ミサゴ	1	2024/01/19	御浜町志原		清水 勝海	22
オナガガモ	3	2024/01/21	紀宝町 相野谷川		清水 勝海	23
メジロガモ (交雑種)	1	2024/01/22	松阪市	成鳥雄	中村 真理子	24
ルリビタキ	1	2024/01/30	熊野市 寺谷公園		沢本 浩志	25
キマユムシクイ	1	2024/02/03	伊勢市 宮川沿い		中西 まほ	26

脚注

- 約 40 羽の群れが行き来していた。赤い個体が約半分で雄、残りが雌と思った。
- キンクロハジロと一緒に行動していた。
- 松ぼっくりを食べたり、メタセコイヤの新芽(?)をついばんだりしていた。
- 干拓地南部の保全区の池の上を北から南に飛んで、ヨシ原に降りた。
- 五主海岸方面から飛んできて干潟に降りようとしたが降りず、そのまま南西の山の方に消えていった。
- 今年も無事到着。
- 首に白い首輪のあるホシハジロ。喉と首が白いとなるとヨシガモとの雑種か。ホシハジロと比べて体色が若干暗めに見えた(画像3) 潜水ガモと淡水ガモの繁殖はあるのか?
- ヤマシギを、溪流で見たのは初めて。泥に嘴突っ込んで、餌探しをしていた。
- オナガガモとマガモのハイブリッド雄。マガモと一緒に行動しているよう。
- 大杉谷自然学校の窓下にてオオタカ死亡していた。

18. 雲出川河口から阪内川河口の間に数組に分散していたが、1月6日に合流して21羽になる。これまでの最大飛来数。1月7日現在 滞在中。
20. 魚を獲ったり水浴びをしたりしていた。
21. トモエガモ、カルガモと一緒にいた。24の個体とは別個体。
24. ホシハジロの群れの中にいた。メジロガモとホシハジロの交雑種と思われる。
25. 人馴れし、近くで観察しても逃げなかった。
26. 桜の木々をいそがしく飛びまわり、メジロの群れと共に採餌していた。



カワアイサ：南 一朗



クロサギ：中村 真理子



クビワキンクロ：沢本 浩志



メジロガモ（雑種）：山下 博寿



ツクシガモ：今井 光昌



イスカ：西村 四郎



イスカ：南 一朗



ルリビタキ：沢本 浩志



ホシハジロ (雑種)：今西 純一



ヤマシギ：西村 四郎



ヤマセミ：中村 真理子



オナガガモ X マガモ (雑種) : 鈴木 健真



メジロガモ (雑種) : 中村 真理子



メジロガモ : 中村 真理子



ソリハシセイタカシギ : 今井 光昌



ニュウナイスズメ : 岡崎 かおり

ガンカモ調査終わる

研究部 ガンカモ調査担当
伊藤 通数 平井 正志

2024年1月のガンカモ調査は三重県からの委託調査として行われ、合計205か所を調査し、三重県に報告した。今年は新たに4名の方が調査に参加された。また、これまで調査されていなかった。宮川上流部のいくつかの地点の調査も行われた。結果は追って報告するつもりである。

今冬のミヤコドリが大幅に増加してます

桑名市 近藤 義孝



当会では、ミヤコドリの生息個体数を1年間に数回、三重県内各地の海岸を会員が分担して確認しています。今までの報告は、しろちどり111号などで報告されています。今年度の調査は2月にも行われますが、今冬は今までと比べ、より多くの個体が観察されました。今年度の調査結果について以下の表に示します。

5月に47羽、7月に17羽、12月に232羽、1月に231羽観察できました。ミヤコドリは、しろちどり107号でも紹介されているように伊勢湾西海岸以外では、千葉県の上三河で多く観察されてい

ます。千葉県環境生活部自然保護課自然環境企画班に問い合わせた所、月に2回計毎年24回、千葉県で鳥類調査をしていて、ミヤコドリも調べているとのことでした。今年度は集計中なので、昨年度までの結果を教えてくださいました。延べで、2022年度24回の合計2730羽、1回の調査の最大272羽だそうです。三河では多い時は500羽以上観察されているようですが、そこまではいかないまでも伊勢湾西岸でのミヤコドリは三河に匹敵するほどの個体数になってきたようです。

表 2021年以降のミヤコドリカウント結果

調査地点名	調査年 調査月日	2021	2021	2021	2022	2022	2022	2023	2023	2023	2023	2023	2024	2024
		1/21	2/22	12/9	1/10	2/24	12/17	1/14	2/14	5/12	7/26	12/6	1/17	2/16
高松海岸		107	101	86	94	105	3	2	116	4	0	144	156	135
鈴鹿川河口		0	4	0	0	0	-	2	8	0	0	2	3	3
鈴鹿川派川河口		0	0	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0
豊津浦一町屋浦海岸		0	0	0	0	0	-	-	-	0	0	-	-	-
志登茂川河口		0	0	-	-	-	-	-	42	0	0	8	19	9
安濃川河口		41	4	17	21	46	61	0	11	8	0	39	36	91
雲出古川一雲出川河口左岸		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雲出川河口右岸一五主海岸		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三渡川河口一阪内川河口		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松坂港		0	40	58	43	0	53	79	0	0	0	39	17	0
金剛川河口 中洲		0	0	0	0	0	0	0	0	35	18	0	0	0
櫛田川河口		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松名瀬海岸一大淀海岸		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		148	149	161	158	151	117	83	177	47	18	232	231	238



カウントには下記の会員が参加しました。

今井 光昌、今井 鈴子、岡 八智子、
岡崎 かおり、片山 賢一、近藤 義孝、
笹間 俊秋、田中 洋子、中村 洋子、
西村 泉、平井 正志、吉崎 幸一、米倉 静
(五十音順)

写真 高松海岸のミヤコドリ
2023/2/14

理事会報告



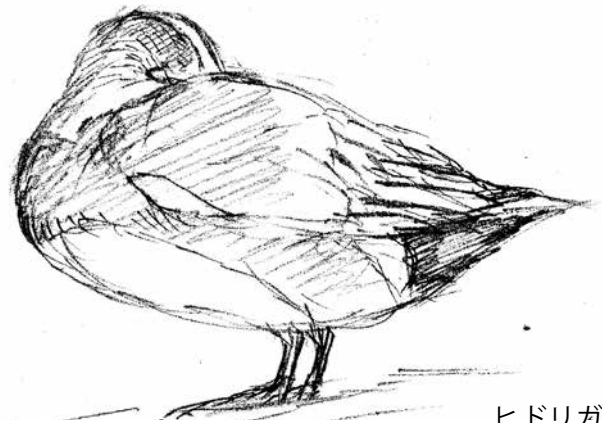
2023年11月18日(日) 津市安濃町草生公民館 出席：11名 欠席：3名

【協議事項】

1. 4月からの体制
代表 近藤 副代表 平井 事務局 笹間
新体制が承認された。その他の部長、会計は現行通り
「しろちどり120号」3月15日発行で会員に公表 6月の総会で出席者に紹介
2. 寄付について(財団より)
タオルを博物館で販売し、1枚につき100円を当会に寄付 了承された
3. チュウヒサミット
財団の関与する可能性あり 12月の財団理事会で決定される 会場など未定
4. 鳥類目録 水鳥編
データファイルの構築 検討する。水鳥は220種、三重県で100種程度
5. 中部ブロック、24年は諏訪支部で 対面開催か? 参加意思あり
3年後か、4年後に三重で行うことになる
6. シギチ記事の刊行について
35回分をまとめて冊子にし、発行することを検討する
7. 「しろちどり」国会図書館納本 PDFも納本する
8. 「しろちどり」の表紙について
編集部としては当面絵を続けたい 了承された
119号にA4別紙をはさみ、表紙絵、写真、原稿も募集する

【報告事項】

1. カワウ調査 12月、3月を県と契約した 17箇所
2. ガンカモ調査 180箇所ですべて契約作業中
3. 探鳥地紹介(財団より)
財団創立90周年記念WEBコンテンツ
「未来に残したい探鳥地」への協力
4. 全国集会(Remote)について
5. シギチ調査=五主、三渡川、櫛田川、
(高齢化など問題あり)
交代を議論したが、当面は現状のまま



ヒドリガモ

代表、事務局の交代

2023年11月の理事会で、代表、事務局が2024年4月から交代することが決まった。新しい代表には近藤 義孝が就き、副代表は平井 正志となる。また、事務局は笹間 俊秋が担当する。その他の役職はこれまでどおりである。今年6月の総会で、会員に紹介する予定。

(平井 正志・近藤 義孝)

事務局だより

活動の記録 (2023年12月～2024年1月まで)

2023年

- 12/6 ミヤコドリ一斉調査
- 12/16 チュウヒ調査
- 12月 会報誌「しろちどり第119号」編集作業・入稿作業・発送作業
- 12/1～31 県委託カワウねぐらコロニー調査

2024年

- 1/17 ミヤコドリ一斉調査
- 1/18 松阪市立松ヶ崎小学校 / 香肌小学校 カモの観察会に協力
- 1/7～21 県委託ガンカモ類およびカワウ一斉調査
- 1/20 チュウヒ調査

探鳥会報告 (2023年10月～2024年1月)



●香良洲海岸探鳥会

2023年10月28日(土) 13:00～15:00

津市香良洲町 香良洲海岸

今井光昌 今井鈴子 参加者89名(会員77名)

ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、スズガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、オオソリハシシギ、キアシシギ、ミユビシギ、トウネン、ハマシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ホオジロ 計39種

参加者89名の内の会員77名には、三重の会員以外の愛知支部、岐阜支部、遠江支部の会員も含まれています。会員外12名の参加も多いですが、予想外の参加者の多さに準備不足もありました。その点は今後に生かしたいと思います。参加者の方が実際の参加者数をカウントされましたが103名でした。参加者名簿に記載されなかった人も多かったのだと思います。参加者増の主な要因は他支部の参加もあり、クロツラヘラサギが曾原大池に滞在していたこともありました。参加者が多くて楽しい探鳥会になりました。

●中村川探鳥会

2023年11月12日(日) 9:30～11:30

松阪市嬉野一志町 中村川中流域

吉崎幸一 小野新子 参加者23名(会員14名)

カイツブリ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、クサシギ、イソシギ、トビ、カワセミ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、ドバト 計27種

日差しはあまりありませんでしたが、風はそれほど強くない探鳥会日和でした。堤防に上がると河川敷周辺で、モズ、ヒヨドリやウグイスの声や姿が迎えてくれました。ウグイスは地鳴きだけでなく、時期はずれのさえずりも聞くことができました。堰ではキセキレイやイソシギなどの餌を探している姿もじっくり見る事ができました。その他カワセミの飛ぶ姿も見られ、今回期待していた種類をほぼ観察することができました。

●安濃川河口探鳥会

2023年11月19日(日) 13:00～14:30

津市高洲町 安濃川河口

落合 修 奥山正次 参加者28名(会員20名)

ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ダイゼン、ミヤコドリ、ハマシギ、ユリカモメ、ズグロカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ウグイス、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ、ドバト 計30種

愛知・滋賀・京都・大阪からの参加者を含め、総勢28名の探鳥会になりました。当日は天気も良く穏やかな日でした。ミヤコドリは70羽ほどいて、探鳥会の間ずっと観察者の前にいました。

●海蔵川で鳥見ing!(バードウォッチング)その3

2023年11月21日(火) 9:45～12:00

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬裕之 参加者12名(会員6名)

カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、バン、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、ドバト 計23種

朝方は大変冷え込んだので寒い一日を覚悟しましたが、開始時刻になり歩き始めると、着込み過ぎて暑いくらいの陽気の中で鳥見ing始まりしました。開始早々から海蔵川のマスコットのカワセミが「ピー」という鳴き声と共に一直線に飛んでいきました。代官橋左岸にあった刑部神社入口の木々が伐採されていて、いつもそこでメジロやカワラヒワなどが餌をついばんでいた賑やかな姿を見る事が出来なくなっていたのは残念でした。気を取り直して右岸側に回ると、川面にはバンやカイツブリがのんびりと泳いでいました。

江田川の桜にはツグミが羽根を休ませているのを見つける事ができ、いよいよ冬本番が近づいているのを感じながらの解散となりました。

●身近な冬鳥を観察しよう

2023年11月23日(木・祝) 9:30～11:30

津市一身田上津部田 三重県総合博物館周辺の溜池
共催団体/三重県総合博物館・

三重県環境学習情報センター

平井正志 木村京子 稲垣玲弥 他に博物館スタッフ1名 参加者21名(会員3名)

ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、オオバン、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ドバト 計18種 他に種不明のタカ1種

観察会の応募は、なんと定員の5倍もあったという。今年は2回に分けているのだが。当日は、晴れて風もなく汗ばむほどであった。観察会はやはり小さな子が中心。望遠鏡でカモを見せると「かわいい!」と。それより、どんな色、どんな形をしているか見てほしいのだが。

博物館周辺の宅地化が進み、ため池のカモも少なくなったようで、残念である。タカが一羽飛んだが、ハイタカかオオタカか? すぐに梢に消えた。

●三滝川かんさつ会

2023年11月25日(土) 9:30～12:00

三重郡菟野町 三滝川河川敷

矢田栄史 鈴木健真 参加者28名(会員14名)

カイツブリ、キジバト、カワウ、トビ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、アオジ 計25種

カワセミがよく見られ、参加者の方たちを喜ばせてくれました。冬鳥は少なくベニマシコやツグミ、シメなどは鳴き声のみの確認となりました。

河原ではハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイの三種が同時に見られました。ちょっとした林の中ではコゲラやシジュウカラが、あまり人間を気にすることなく近くで見ることができました。

●木曾岬干拓地探鳥会

2023年11月26日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者18名(会員15名)

オカヨシガモ(25)、マガモ(13)、ハシビロガモ(6)、オナガガモ(1)、コガモ(13)、ホシハジロ(96)、キンクロハジロ(14)、スズガモ(2)、カイツブリ(3)、カンムリカイツブリ(5)、キジバト(3)、カワウ(8)、アオサギ(1)、ダイサギ(4)、コサギ(2)、オオバン(8)、タゲリ(12)、コアオアシシギ(1)、クサシギ(3)、イソシギ(1)、ミサゴ(4)、トビ(3)、ハイタカ(1)、ノスリ(2)、カワセミ(1)、チョウゲンボウ(2)、コチョウゲンボウ(1)、モズ(4)、ハシボソガラス(150)、ハシブトガラス(20)、ヒバリ(10)、ヒヨドリ(20)、ウグイス(3)、メジロ(4)、ムクドリ(500)、ツグミ(7)、ジョウビタキ(5)、イソヒヨドリ(1)、スズメ(100)、ハクセキレイ(12)、セグロセキレイ(1)、タヒバリ(25)、カワラヒワ(30)、ホオジロ(7)、アオジ(1)、ドバト(50) 計46種

田んぼにタヒバリ、タゲリが入っていて、いよいよ冬鳥が来た実感できました。水路にはコアオアシシギが餌を採っていて、皆さん夢中で観察されていました。

●身近な冬鳥を観察しよう

2023年12月2日(土) 9:30～11:30

津市一身田上津部田 三重県総合博物館周辺の溜池

共催団体/三重県総合博物館・

三重県環境学習情報センター

平井正志 木村京子 稲垣玲弥 参加者20名

(会員3名)他に 博物館スタッフ1名

ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、オオバン、ミサゴ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ 計18種

少々風があったが、さほど寒くもなく池を回った。望遠鏡を使って小さな子供たちにカモ類を見てもらった。期せずしてミサゴが1羽飛来した。カモは少なめであったが、ゆっくりと楽しめた。

●河内溪谷探鳥会

2023年12月3日(日) 9:00～11:00

津市雲林院 河内溪谷

落合修 奥山正次 参加者11名(会員8名)

カワウ、ノスリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、カワガラス、ルリビタキ、ジョウビタキ、ホオジロ 計12種

紅葉のピークから1週間ほど過ぎ、葉も落ちかけている頃でした。メジロやヤマガラ、ウグイスの地鳴きなどをじっくり観察することができました。昼近くになると観光客も増えていき、まだ少し時間が残っていたので錫杖湖へ移動しました。

●ベルファーム探鳥会

2023年12月10日(日) 9:30～11:30

松阪市伊勢寺町 松阪市農業公園ベルファーム

加藤恭子 中村真理子 参加者18名(会員16名)

マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、カイツブリ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、トビ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ 計30種

12月とは思えないほど風もなく暖かい日で、参加者は上着やマフラーを取ったりするほどでした。キンクロハジロやホシハジロなどのカモ類も池に来ていて、ツグミやジョウビタキも来ていました。久しぶりにバンを見ました。バンは幼鳥でした。カワセミも出てきましたが、逆光で見えにくく残念でした。

●員弁川探鳥会

2023年12月10日(日) 9:00～12:00

いなべ市員弁町 員弁川周辺

伊藤通数 笹間俊秋 参加者14名(会員10名)

キジバト、ハイタカ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト 計21種

天気が良く絶好の探鳥会でした。鳥合わせでは21種でした。猛禽類は、ノスリ・ハイタカでした。カワセミ・ホオジロ・カワラヒワ・ハクセキレイ・カワラバト・モズ・ジョウビタキ等が観察できました。開催場所いなべ総合学園には、事前に事務局へ連絡をとり了承を得ました。

●磯部川水系探鳥会

2023年12月17日(日) 9:30～11:30

志摩市磯部町穴川 穴川～迫間

濱屋勝則 濱口雅也 参加者14名(会員12名)

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、イソシギ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、カワセミ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、アオジ、ドバト 計34種

天候には恵まれましたが、急な寒気の影響で冷たい風が吹いた探鳥会でした。しかし、多くの参加者の方々とたくさんの野鳥を見る事ができて良かったです。

●横山池・安濃ダム探鳥会

2023年12月17日(日) 10:00～12:00

津市芸濃町 横山池・安濃ダム

落合修 奥山正次 参加者20名(会員14名)

オシドリ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、トモエガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、トビ、モズ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、計24種

昨日までとは違い、風が強く寒い日でした。横山池では様々なカモ類が観察でき、みなさん熱心に見ていられて、少し時間が過ぎてしまいました。その後、安濃ダムへ移動し山の小鳥やオシドリを観察したかったのですが、何も出現せず、そのまま当地で鳥合わせをして終わりにしました。

●木曾岬干拓地探鳥会

2023年12月24日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者20名(会員19名)

オカヨシガモ(20)、マガモ(10)、カルガモ(20)、ハシビロガモ(15)、オナガガモ(4)、コガモ(63)、ホシハジロ(55)、キンクロハジロ(20)、カイツブリ(8)、カンムリカイツブリ(3)、ハジロカイツブリ(1)、キジバト(3)、カワウ(50)、アオサギ(8)、ダイサギ(4)、コサギ(1)、ヘラサギ(1)、オオバン(10)、タゲリ(35)、ケリ(2)、クサシギ(1)、イソシギ(2)、ミサゴ(3)、トビ(16)、ハイロチュウヒ(1)、ノスリ(1)、

カワセミ(1)、モズ(10)、ハシボソガラス(40)、ハシブトガラス(10)、ヒバリ(1)、ヒヨドリ(25)、ウグイス(1)、メジロ(20)、ムクドリ(50)、ツグミ(31)、ジョウビタキ(2)、イソヒヨドリ(1)、スズメ(250)、ハクセキレイ(11)、セグロセキレイ(1)、タヒバリ(20)、ホオジロ(15)、アオジ(3)、ドバト(83)

計45種

弥富野鳥園内にヘラサギがいるという事で最初に観察へ行きました。鍋田ではハイロチュウヒが飛び一部の方は近くで見られました。カモは例年より数が少ないようです。それでも45種が観察できました。

●肱江川探鳥会

2024年1月14日(土) 10:00～12:00

桑名市多度町猪飼 肱江川周辺

共催団体/両猪狩の環境を守る会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者12名(会員7名)

ダイサギ、イカルチドリ、トビ、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計17種

チョウゲンボウやノスリ、トビなどの猛禽類が観察できました。始まった時は足元にわずかな雪もあったのですが、風もなく少しずつ暖かくなって探鳥日和でした。

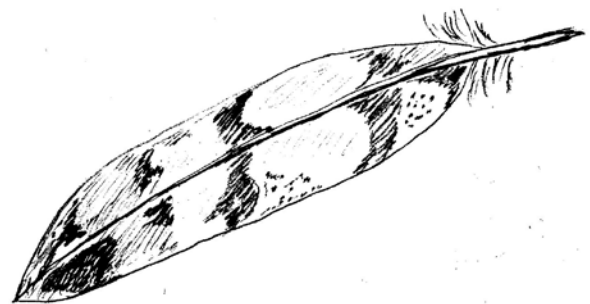
●上野森林公園探鳥会 雨天中止

2024年1月21日(日)

伊賀市下友生松ヶ谷1 三重県上野森林公園

事後調査の観察種(前澤昭彦)

ホシハジロ、キンクロハジロ、キジバト、カワウ、アオサギ、トビ、ハイタカ、コゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ツグミ、アトリ、アオジ、コジュケイ 計21種



ヤマドリ

●北勢中央公園探鳥会 天候不順中止

2024年1月27日(土)

●木曾三川探鳥会

2024年1月23日(火) 9:00~12:00

桑名市・海津市・愛西市 揖斐川・長良川・木曾川

笹間俊秋 近藤義孝 参加者6名(会員5名)

オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ケリ、シロチドリ、クサシギ、セグロカモメ、ミサゴ、ノスリ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒバリ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ムクドリ、カワガラス、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト 計33種

天気は晴れていましたが、強風で揖斐川、木曾川ではあまり鳥がいませんでしたので、早い目に切り上げ多度峡へ行きました。溪流にいた2羽のカワガラスはとても愛想が良く、皆さん喜んで観察されていました。

●木曾岬干拓地探鳥会

2024年1月28日(日) 9:00~12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者15名(会員15名)

オカヨシガモ(15)、カルガモ(20)、ハシビロガモ(12)、コガモ(16)、ホシハジロ(56)、キンクロハジロ(22)、カイツブリ(6)、カンムリカイツブリ(2)、キジバト(1)、カワウ(10)、アオサギ(2)、ダイサギ(1)、オオバン(11)、タゲリ(7)、ケリ(8)、セイタカシギ(1)、タシギ(2)、クサシギ(4)、イソシギ(5)、ミサゴ(5)、トビ(18)、ハイイロチュウヒ(1)、ハイタカ(1)、ノスリ(2)、カワセミ(1)、チョウゲンボウ(1)、コチョウゲンボウ(1)、モズ(6)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(15)、ヒバリ(10)、ヒヨドリ(13)、ウグイス(4)、メジロ(20)、ムクドリ(18)、シロハラ(1)、ツグミ(6)、ジョウビタキ(3)、イソヒヨドリ(1)、スズメ(356)、ハクセキレイ(20)、セグロセキレイ(1)、タヒバリ(37)、カワラヒワ(20)、ベニマシコ(1)、ホオジロ(5)、アオジ(4)、シベリアジュリン(1)、ドバト(50) 計49種

寒波も治まり風もなく探鳥日和となりました。農業用溜池にはセイタカシギが餌を採っていて皆さん喜んで観察していました。チョウゲンボウ、コチョウゲンボウ、ハイタカ、ハイイロチュウヒ、ノスリと猛禽類が多数飛び、干拓地ではベニマシコ、シベリアジュリンなどが観察できました。



カワラヒワ

編集後記

ここ数年はコロナ渦で旅行も自由にできない日々が続いたが、ようやく解禁されて海外から旅行客が戻り始め、会員からも各地で鳥見に行ったという報告が入るようになった。今号にも湖北の旅の様子が載っているが、三重県以外の鳥見の旅に行ったことをどんどん投稿していただきたい。また、3月の末には国際シバサミットがフィリピンで開かれることが決まった。私もポスター発表で参加することになり、久しぶりの海外であるが日本では見られない鳥を観察してこようと思う。その様子は次号以降で報告したい。(T.S.)

しろちどり 120号

2024年3月1日発行

題字：濱田稔

表紙絵：三曾田明

カット：平井正志

編集：平井正志・笹間俊秋・三曾田明

発行所：日本野鳥の会三重

平井正志 方

〒514-2325 津市安濃町田端上野910-49

ホームページ <http://miebird.org/>

印刷：株式会社プリントパック

〒617-0003 京都府向日市